

# 日本歌曲・歌詞背景の研究

(その1)

文部省小学校学習指導要領共通教材曲において

坪 田 信 子

仁愛大学人間生活学部

A Study on the Background of Japanese Songs and Lyrics:

(Part 1)

As found in Common Textbooks of the Guidelines for the

Course of Study in Elementary Schools as per

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Nobuko TSUBOTA

Faculty of Human Life, Jin-ai University

歌曲の生命を大きく担っているのは「詩＝ことば」である。世界各国にはそれぞれの母国語による詩に付曲された歌曲があり、わが国ではそれが、日本語の原詩による「日本歌曲」となる。

本研究ではその視点を「歌詞の背景」に置き、「日本歌曲」の原点となった明治以降の学校唱歌と、文部省小学校学習指導要領音楽科に示されてきた表現（歌唱）分野の共通教材曲（必修指導曲）に焦点を当て、（その1）として探究するものである。具体的には、わが国最初の国定教科書「尋常小学唱歌」（明治44年刊）に掲げられた第1学年から第6学年までの唱歌教材曲、それ以降から来年（平成23年）施行の文部省小学校学習指導要領（第7回改訂／平成20年告知）までに示された「共通教材曲」を見わたし、明治末期から今日まで100年間に渡って脈々と受け継がれ育まれてきた「日本人の音楽感の源泉」を探るものである。

キーワード：母国語 学校唱歌 文部省小学校学習指導要領 共通教材曲 歌唱表現

## I はじめに

明治維新後、日本の教育は先進諸外国の教育に迫いつくために凄まじい改革がなされていった。しかしながら江戸時代のおよそ260年間に渡る長い鎖国政策から一転した明治5年の学校制度頒布では、音楽は「唱歌」の名称で教科としての位置づけはされたものの「當分之を欠く」として、教育現場での実際の指導はなかった。と言うのも、当時は音楽の教科で教える教材も教科書も無く、また、それを指導する教員も居なかったからである。

明治11年にアメリカでの師範教育研修から帰国した伊澤修二、高嶺秀夫らの提言によって、翌明治12年に

ようやく「音楽取調掛」が文部省により創設され、音楽教育で取り上げる教材の研究・開発とそれを指導する教員養成機関の役割を担った。この「音楽取調掛」は後に、現在の東京芸術大学音楽学部の前身である東京音楽学校へと発展する。

「音楽取調掛」初代の御用係（音楽取調掛長）となった伊澤修二の劃策献言<sup>(註1)</sup>の中に次の下りがある。

「乙説に曰く、各國皆な各國の言辭有り文物あり、是れ其住民の性質と風土の情勢とに因て自然に産出せしものなれば、人力の能く之を繙易すべきに非ず。且音楽の如きは素と人情の発する處人心の向ふ處に従つて興りたるものなれば、各國皆固有の國樂を保有す。」正に、それぞれの国民に固有の言語と風土・習慣・性

質があり、従って各国それぞれに固有の音楽がある筈だと言う。つまり日本には日本語と日本の風土・気候・感性等に根ざした日本人独自の音楽があるのだと言う。次に、「未だ全く他國の音楽を自國に移入せしの例あるを聞かず。由是觀之我國に西洋の音楽を全然移植せんとするは、恰も我國語に代るに英語を以てせんとするが如く、到底無益の論と言はざるを得ず。故に我固有の音楽を培育完成するに如かずと。」と言い切っている。つまり、日本での音楽教育を全て西洋の楽曲を用いてするならば、それは、まるで日本語の代わりに英語で話すに等しく全く論外であり、それでは日本固有の音楽の将来発展に寄与することにはならない。更に、「丙説に曰く、甲乙二説各理なきに非ずと雖も、皆偏倚の極に陥るの弊を免れず。故に其中を執り東西二洋の音楽を折衷し、今日我國に適すべきものを制定するを務むべしと。」（しかしながら）音楽教育の先進国である西洋の音楽と日本独自の音楽とでは極端な隔たりがあるので、この二つの音楽を折衷して、今日の日本の音楽教育に適した楽曲の制定が必要であると提言している。

「右の如く東西二洋の音楽を折衷し、将来我國樂を興すの一助たるべきものを造成するを以て現今の要務となす時は、實際取調ぶべき事項大綱三あるべし。曰く東西二洋の音楽折衷に着手する事、曰く將來國樂を興す人物を養成する事、曰く諸學校に音楽を實施して適否を試る事。」

(注1) 劃策<sup>かくさく</sup>献言…実現するための計画的な提言

## II 学校教育の場で

伊澤修二の提言は更に続く。

この東西二洋の音楽を折衷して、教材としての新曲を作るに当たり、折衷の第一歩は、先ず東西二つの音楽の異なる点と同じ点を見つけ出す事にある。しかしながら西洋の古典曲と日本の端唄<sup>(注2)</sup>を比較すると、殆ど似たところが無い。次に西洋の神歌<sup>(注3)</sup>と日本の琴歌とを比較すると、ここには何らかの同趣を感じる。そして西洋の童謡と日本の童謡を比較すると、全くよく似ている。これらから、西洋の音楽と日本の音楽では、それを組

み立てている音は同じながら、それらを結び合わせる（作曲上の）方法が違うと言える。（中略）そこで、教材として適した折衷曲の着手に当たって、わが国の童謡やその他最も簡略な謠類を集めて、西洋の童謡と比較し、二者を折衷して相当の歌曲を作り、将来小学生徒に学校音楽教育の教材として使うべきである。<sup>(注4)</sup>

このような出発を経て、明治15、6年頃からこの「音楽取調係」の練習生が卒業し、主として当時は全国で僅か5校しかなかった高等女学校等の音楽教師として教壇に立つようになり、唱歌集（文部省音楽取調係編纂／明治14年初版）<sup>(注5)</sup>の刊行に依って唱歌教材も出来て、まだまだ微々たるものではあったがわが国の唱歌教育が始まったのである。

(注2) 端唄<sup>はうた</sup>…文化・文政期（1787～1837第11代将軍徳川家斉在職期）、江戸で円熟・大成した三味線用の短い歌曲

(注3) 神歌…キリスト教の讃美歌

(注4) …筆者が原文を現代文で概略したもの。

(注5) 唱歌集…小学校師範学校中学校教科書（音楽）

## III 文部省小学校学習指導要領・7回の改訂

第1回改訂 昭和26年（昭和22年試案の改訂）

第2回改訂 昭和36年（告知は昭和33年）

第3回改訂 昭和46年（同43年）

第4回改訂 昭和55年（同52年）

第5回改訂 平成4年（同平成元年）

第6回改訂 平成14年（同10年）

第7回改訂 平成23年（同20年）

文部省小学校学習指導要領は、昭和22年に先ず試案が示された後、昭和26年の施行の際に第1回の改訂がされ、その後は約10年毎の間隔を置いて、60年間の間に7回の改訂を経てきた。

昭和36年の第2回改訂において、所謂必修教材曲として初めて「共通教材曲」の指定がされ、学習指導要領は、改訂の度にその内容の特徴から、昭和46年第3回改訂は「カリキュラムの現代化」、昭和55年第4回改訂は「ゆとり教育」、平成4年第5回改訂は「個性と新学力観」、平成14年第6回改訂は「基礎・基本の重視」、そして来年平成23年度より実施の第7回改訂

は「知力・道徳・体力のバランス」と謳われている。

音楽教科では特に第4回改訂から、日本音楽の積極的な導入が示され、各学年3～4曲の共通教材曲の中にも、次の各1曲ずつが入るようになった。

- 第1学年 ひらいたひらいた（第4～7回まで）
- 第2学年 かくれんぼ（第4～7回まで）
- 第3学年 うさぎ（第4～7回まで）
- 第4学年 さくらさくら（第4～7回まで）
- 第5学年 子もり歌（陽音階）（第4～7回まで）
- 第6学年 越天楽今様（第5～7回まで）

「ひらいたひらいた」「かくれんぼ」「うさぎ」は共に江戸時代より歌い遊ばれてきた日本の“わらべうた”，「さくらさくら」は明治21年に作られた東京音楽学校の“箏曲集”に載ったもの，「子もり歌」は江戸時代に発した子守り娘の“眠らせ歌”，そして「越天楽今様」は“雅楽”に由来する旋律に歌詞がついて平安から鎌倉時代に流行した歌で、いずれも日本独自の音構成によるものである。

#### IV 文部省小学校学習指導要領試案（歌唱表現）

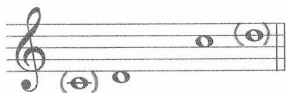
昭和22年に試案として告知刊行された文部省小学校学習指導要領音楽編の文献を紐解くと、第一学年から第六学年までの音楽指導内容が、先ず学年ごとの発達段階を踏まえて述べられ、次に①歌唱教育、②器楽教育、③鑑賞教育、④創作教育の四分野に渡って詳細に述べられている。ここで歌唱教育の節を要約すると、

##### 第1学年の指導目標

1. 音楽の喜びを味わうことを主眼とする。
2. リズム教育を主とする。
3. 音程を正しく感得させる。
4. 各自各自で音楽の喜びを味わう（単音唱歌）。
5. ヨーロッパ音楽の音組織を指導の基礎とする。

##### 指導の基準と方法

1. 自然な発声と正しい発音を指導する。
2. 音域は次の標準による。



3. 比較的テンポの速いリズムカルな音楽及び単純

な旋律による音楽を教える。

4. 拍子は2/4、4/4、3/4などの単純なものを選ぶ。
5. 付点音符や三種類以上の異なる種類の音符の混合はできるだけ避ける。
6. 目標にもとづき音階は長音階を主とする。
7. 調子はハ長調・ト長調・ヘ長調を主体とし、ニ長調・変ロ長調はこれにまじえることができる。
8. 単音唱歌を主体とする。
9. 単純な伴奏で、和音感及びリズム感を養成する。
10. 八小節から十六小節までのものを適当とする。
11. 歌曲の内容は次のようなものとする。
  - a. 単純な子供らしい明るい歌。
  - b. リズミカルで遊戯と結合できるような歌。
  - c. 動物や植物を取り扱った歌。
  - d. 子供らしいユーモアを歌った歌。
12. 聴唱を主体とする。
13. 歌曲はできるだけ記憶させる。
14. 歌唱に伴う身体 of 自然な運動を自由にさせて、音楽の喜びで一学級全体の気持ちを集中させる。
15. 季節に応じた戸外での授業など、歌唱即生活という本学年児童の特異性を考慮して工夫する。
16. 他教科と密接な関連を保ち、一体的に取り扱う。

##### 考查

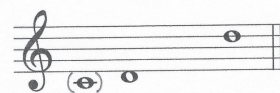
1. 音程を音楽の基礎訓練として最も重視する。
2. 正確なリズム感覚が育っているか。
3. 歌がどれだけ記憶できているか。

指導の目標、基準と方法、その結果の考查ではいずれも、所謂音楽の3要素であるリズム、音程、ハーモニーについてと、速度、拍子、長さ等、曲を構成する内容を指定（限定）したり発声についての注意が述べられていて、歌詞についての指導指針を示す文言は見当たらない。

##### 第2学年の指導目標

ほぼ第1学年と基本は同じで、相違は次の3点。

- ① 単音唱歌を主体としながら輪唱・合唱も加える。
- ② 音域は次の標準による。

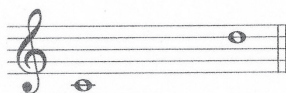


- ③ 8～16小節を主体とするが適度に拡大してよい。

### 第3学年の指導目標

第1, 2学年との相違は、次の6点。

- ① リズム・旋律・和声の総合的教育。
- ② 音域は次の標準による。

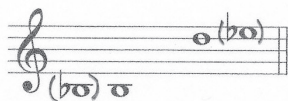


- ③ 協力して作り出す音楽美を感得。
- ④ 6/8拍子の指導。
- ⑤ 自然や友愛・協働を歌った歌を加える。
- ⑥ 聴唱に視唱も加える。

### 第4学年の指導目標

第3学年との相違は次の10点に及び、指導内容が飛躍的に増える。

- ① 音楽の形式や構成について（二部・三部形式など）の知的理解。
- ② 日本の伝統音楽の音組織にも親しませる。
- ③ 音楽の自発学習を促す。
- ④ 音域は次の標準による。



- ⑤ 2/2拍子を加える。
- ⑥ 短音階も指導する（イ短調）。
- ⑦ 抒情的情緒や社会生活・労働に関する歌を加味。
- ⑧ 視唱を重視して読譜力を養成する。
- ⑨ レガート、スタッカート等の歌唱技術を指導。
- ⑩ 「表情（強弱・緩急の変化）」の理解を考査。

### 第5学年の指導目標

第4学年との相違は概ね次の6点。

- ① 音楽の高い情操に触れさせる。
- ② 詩の内容を音楽的に生かしていく。
- ③ 音域は次の標準による。（音域の拡張）



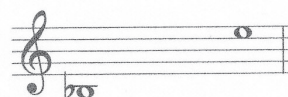
- ④ 日本音階を加える。
- ⑤ 次第に合唱表現を多くする。
- ⑥ 理解（楽曲の形式、詩と音楽の関連）度の考査。

●但し、詩と音楽との関連については、詩の文学的内容の音楽的描写ではなく、詩の語感・句調、あるいは詩全体の調子をもととした音楽的表現に重点をおくべきである。

### 第6学年の指導目標

第5学年との相違は、次の2点。

- ① 音域は次の標準による。



- ② 感覚的、情緒的、知的各方面に渡り指導する。

## V 歌唱表現における「歌詞」の位置

「試案」の歌唱教育の指導指針の中ではそれぞれ

第3学年の、

自然や友愛・労働を歌った歌を加える。

第4学年の、

叙情的情緒や社会生活・労働に関する歌を加味する。

第5学年の、

詩の内容を音楽的に生かしていく。

の項で、歌詞の内容に触れた文言が見受けられる。これらを●但し以下の説明との関連から教師の指導指針として解釈すると、一歩踏み込んだ考察が必要となる。なぜなら、詩は文学的内容を省いて理解はできなく、従って詩の内容の十分な理解無くして、その詩が音楽にどう生かされているのかを、子どもたちに感得させることは相当困難だと思えるからである。ここに示している詩の語感、句調、あるいは詩全体の調子からのみの表現活動をするならば、それは、敢えてことばの表層からの理解にとどまり、特に第4学年での「抒情的情緒」や第5学年の「音楽的に高い情操を感得させる」と掲げた歌唱教育の目標は、全く音楽の要素面からだけの理解に留まってしまう。そして「歌」の命を担っている詩（ことば）の内容の理解と共感については特段の理由も無く常に二の次となり、「音楽」は音楽の分野、文学は「国語」の分野といった風に教科毎に隔絶されることにも繋がり、この点こそ、後に“学校唱歌、学校の門を出ず”と揶揄される源となつたのではないだろうか。



昭和26年に施行された際に改訂された「試案」の中で、次のような興味深いくだりがある。

### Ⅲ 児童の音楽的発達

#### 3 歌唱能力はどのように発達するか。

##### 9) 国語の理解力や日常の言語生活と歌唱能力。

国語の理解力や表現力、ならびに日常の言語生活が、発声器官の発達や歌曲の表現力に与える影響は相当大きい。一般に、劇的表現の巧みな児童が歌唱表現にすぐれていることや日常乱暴で大きな声をはりあげている男児が柔らかい豊かな発声表現に困難を感じている事実などは、そのよい例である。

ここで示されている発声に関する内容は別として、劇的表現が豊かな児童とは、ことばや詩の内容に敏感でそれを具体的に捉えたり、豊かな想像力で再現して見る（聴く）者に感動を伴った共感を呼び覚ます力の持ち主とすることができ、ここに、歌唱教材の「歌詞」の理解に通ずる指導の大きなヒントが示唆されていると言えないだろうか。

それでは文部省小学校学習指導要領音楽科に示されてきた60年間7回の改訂の流れの中で、歌唱表現での「歌詞」の扱いはどのようなであったか。※表1参照

これらの文言を見渡すと、多少のニュアンスの違いはあるものの、改訂の度に一様に示されている内容は、「歌詞の内容や情景の想像と理解をとおした表現」と言える。ところが実際の教育現場では、この指導内容は全く教師の裁量に掛かっている。言い換えれば、1曲1曲毎の歌詞（詩＝ことば）の内容について、教師がどれだけ適切に、又正しい認識をもって理解できているか、さらに、それを教師自身がどれだけ深めた上で共感を以って子どもたちに伝えられるかと言う、正しく教師一人一人の力量に掛かっているのである。そして、この事こそが歌唱教材をとおした音楽教育の真髄と考える。

## Ⅵ 共通教材曲（必修教材）

明治44年にわが国最初の国定教科書となった「尋常小学唱歌」（第1学年から第6学年）、昭和6年の改訂

版「新訂尋常小学唱歌」、更に、日本が第二次大戦へと突き進んだ昭和16年（尋常小学校は国民学校小学と改称された）の音楽教科書、昭和22年（試案の第1回改訂による26年施行）の教科書、これらのそれぞれに示された唱歌教材の数々と、昭和36年以降6回改訂された「共通教材曲」を一覧してみると、驚くべき事実が浮かび上がる。※表2の1～6参照

それは、「尋常小学唱歌」刊行の明治44年（1911年）から平成23年（2011年）までの約100年間、ほぼ一貫して掲げられている曲の数々である。

全掲曲（計10回）	日の丸（の旗）
	春がきた
	春の小川
	冬景色
計9回掲載曲	おぼろ月夜
	ふるさと（故郷）
計8回掲載曲	さくらさくら（櫻）
	かたつむり
	もみじ（紅葉）
計7回掲載曲	こいのぼり
	富士山
計6回掲載曲	われは海の子※平成22年まで
	月（お月さま）※昭和54年まで
	海※昭和54年まで
	スキーの歌※昭和16年～54年×

中でも「ふるさと」「春がきた」「春の小川」「おぼろ月夜」「もみじ」の5曲は、共に文部省より委嘱された音楽教科書編纂委員であり、国学者と作曲家の高野辰之と岡野貞一のコンビによる名曲で、日本の家族の中で何代にも渡って学校唱歌から家庭へと歌い継がれ、全ての日本人の抒情性に深く共鳴する大切な歌曲となった。

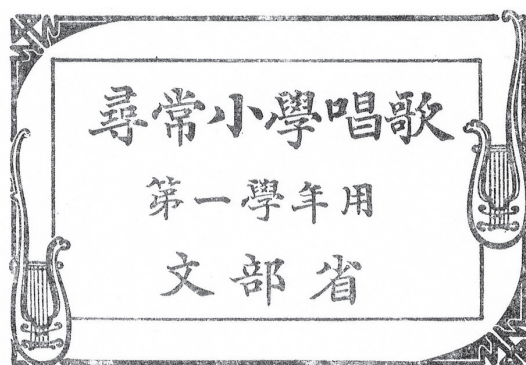
上記の他に、産業構造の発展と伝統文化の衰退の中で、主として歌詞の内容の面で第4回改訂で（昭和55年）教科書から消えていった「村の鍛冶屋」「村祭り」など、日本語特有の表現で日本の風物を歌った忘れがたい佳曲もある。

# Ⅶ 終わりに

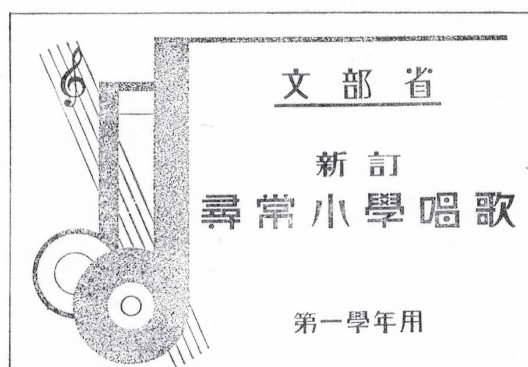
本研究は「日本歌曲・歌詞の背景」(その1)として、明治末期から今日まで約100年間小学校音楽教育の教材となった歌曲に焦点を当てて、その不可欠の要素である「歌詞」はどのように認識され位置してきたか、という視点から主として「文部省小学校学習指導要領」の流れと共に考察を試みたものである。

明治初期の伊澤修二らによる日本の音楽教育の始動から今日まで、そこに携わった人々の時代は違っても百数十年の間、「日本の心」という叙情性の源は、学校教育の中で確かに脈々と受け継がれてきたと言える。それは、早くからドイツやスコットランド民謡等の西洋の楽曲を教材曲として多彩に取り入れてきたにもかかわらず、日本人の作詩と作曲による唱歌からの選曲による、「共通教材曲」という歴史的存在が自ずと物語っている。

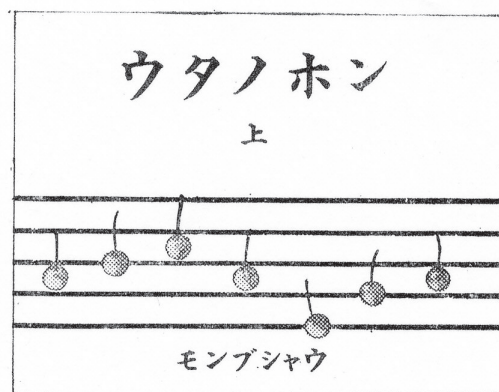
次稿の研究(その2)では、これらの「共通教材曲」の一曲一曲について、その成立の背景を、出来るだけ詳細に具体的に探っていきたい。



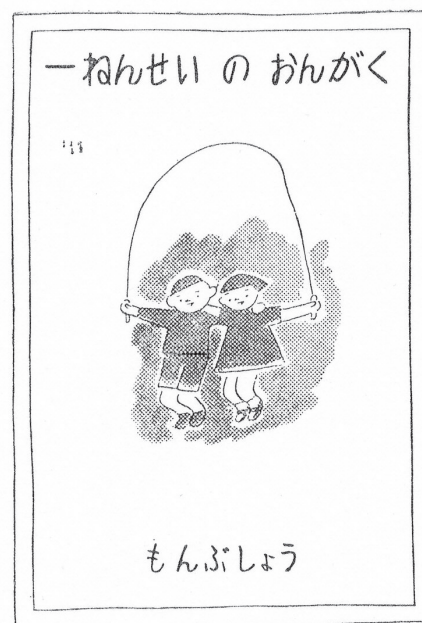
図版1 明治44年発行 第1学年用音楽教科書表紙



図版2 昭和7年発行 第1学年用音楽教科書表紙



図版3 昭和16年発行 小学1年用音楽教科書表紙



図版4 昭和26年発行 小学1年用音楽教科書表紙

## 引用文献

- 1) 日本教育音楽協会『本邦音楽教育史』音楽教育書出版協会、昭和9年刊、82-84頁より抜粋。
- 2) 「文部省学習指導要領 11 音楽科編」(昭和22年及び26年、復刻版)、日本図書、昭和55年刊、22頁14-19行。
- 3) 日本教科書大系『近代編第25巻唱歌』講談社、昭和40年、288頁、344頁、416頁、496頁各々教科書表紙図版。

## 参考文献

- 1) 「文部省学習指導要領 11 音楽科編」(昭和22年及び26年、復刻版)、日本図書、昭和55年刊。
- 2) 日本教科書大系『近代編第25巻唱歌』講談社、昭和40年。
- 3) 「小学校学習指導要領」文部省編、大蔵省印刷局、昭和36、46、55年、平成4、10、20年刊。

表1 歌詞の内容に関連した文言の一欄

第1学年		第4学年	
昭26年	歌詞の内容について話し合う。	昭26年	歌詞の内容や意味を理解して歌う。
昭36年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて歌う。	昭36年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて歌う。
昭46年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて楽しく歌うこと。	昭46年	歌詞の内容を味わい、気持ちをこめて美しく歌うこと。
昭55年	曲想を感じ取り、歌詞の表す情景を想像して表現すること。	昭55年	曲想を感じ取り、また、歌詞の内容を理解して演奏の仕方を工夫すること。
平成4年	歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。	平4年	歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。
平14年	歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。	平14年	歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること。
平23年	歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の工夫をすること。	平23年	歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
第2学年		第5学年	
昭26年	歌曲の感じを表現する能力を伸ばす。○歌詞の意味	昭26年	歌詞の内容で意味を理解して歌詞を読む。歌詞のことばや意味を、よく伝えるように歌う。
昭36年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて歌う。	昭36年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて歌う。
昭46年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて歌う。	昭46年	歌詞の内容を味わい、気持ちをこめて美しく歌うこと。
昭55年	曲想を感じ取り、また、歌詞の表す情景を想像して表現すること。	昭55年	曲想を感じ取り、また、歌詞の内容を理解して演奏の仕方を工夫すること。
平成4年	歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。	平4年	歌詞の内容及び楽曲の仕組みを理解して、それらを生かした表現の工夫をすること。
平14年	歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。	平14年	歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の工夫をすること。
平23年	歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の工夫をすること。	平23年	歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
第3学年		第6学年	
昭26年	歌の歌詞の内容と曲想とをよく表現する。	昭26年	歌詞の内容で意味を理解して歌詞を読む。歌のことばや意味をはっきり伝えるように歌う。
昭36年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて歌う。	昭36年	歌詞の内容を理解し、気持ちをこめて歌う。
昭46年	歌詞の内容を味わい、気持ちをこめて美しく歌うこと。	昭46年	歌詞の内容を味わい、気持ちをこめて美しく歌うこと。
昭55年	曲想を感じ取り、また、歌詞の内容を理解して演奏の仕方を工夫すること。	昭55年	曲想を感じ取り、また、歌詞の内容を理解して演奏の仕方を工夫すること。
平成4年	歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること。	平4年	歌詞の内容及び楽曲の仕組みを理解して、それらを生かした表現の工夫をすること。
平14年	歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること。	平14年	歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の工夫をすること。
平23年	歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。	平23年	歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

表2 国定音楽科教科書（尋常小学唱歌・新訂尋常小学唱歌・国民学校小学・試案）及び、  
文部省小学校学習指導要領に示された歌唱表現共通教材曲（昭和36年以降）一欄

第1学年									表2-1
平成23年	平成14年	平成4年	昭和55年	昭和46年	昭和36年	昭和26年	昭和16年	昭和7年	明治44年
知道体のバランス	基礎・基本の重視	個性と新学力観	ゆとり教育	現代化	共通教材曲の指定	試案	国民学校(小学)	新訂尋常小学唱歌	尋常小学唱歌
うみ	うみ	うみ	うみ	かたつむり	かたつむり	みんないいこ	キミガヨ	日の丸の旗	日の丸の旗
日の丸	日の丸	日の丸	日の丸	日の丸	日の丸	はな	カクコウ	鳩	鳩
かたつむり	かたつむり	かたつむり	ひらいたひらいた	月	月	ちょうちょう	ヒノマル	おきやがりこぼし	おきやがりこぼし
ひらいたひらいた	ひらいたひらいた	ひらいたひらいた				むすんでひらいて	ユフヤケコヤケ	人形	人形
						わたしのこひつじ	エンソク	ひよこ	ひよこ
						ぶんぶんぶん	カクレンボ	かたつむり	かたつむり
						きんぎょ	ホタルコイ	牛若丸	牛若丸
						かたつむり	ウミ	夕立	夕立
						あきのうみ	オウマ	桃太郎	桃太郎
						まりなげ	オ月サマ	電車ごっこ	朝顔
						おうま	モモタロウ	兵隊さん	池の鯉
						すずめ	タネマキ	砂遊び	親の恩
						おむかえ	ハトポッポ	僕の弟	鳥
						おつきさま	コモリウタ	池の鯉	菊の花
						はとぼっぼ	オ人ギョウ	親の恩	月
						にばしゃ	オ正月	鳥	木の葉
						日のまる	デンシャゴッコ	菊の花	兎
						たこのうた	カラス	月	紙鳶の歌
						ゆき	兵タイゴッコ	木の葉	犬
						すずめのおやど	ヒカウキ	つみ木	花咲爺
						こうもりがさ	ウグイス	兎	
						こなひき		紙鳶の歌	
								雪達磨	
								犬	
								花咲爺	
								一番星	

第2学年									表2-2
平成23年	平成14年	平成4年	昭和55年	昭和46年	昭和36年	昭和26年	昭和16年	昭和7年	明治44年
知道体のバランス	基礎・基本の重視	個性と新学力観	ゆとり教育	現代化	共通教材曲の指定	試案	国民学校(小学)	新訂尋常小学唱歌	尋常小学唱歌
夕やけこやけ	夕やけこやけ	夕やけこやけ	夕やけこやけ	春がきた	春がきた	春	君が代	櫻	櫻
春がきた	春がきた	春がきた	春がきた	さくらさくら	さくらさくら	シーソー	きげん節	雲雀	よく学びよく遊ぶ
かくれんぼ	かくれんぼ	かくれんぼ	かくれんぼ	雪	雪	くつがなる	春が来た	小馬	雲雀
虫の声	虫の声	虫の声				さんぽ	さくらさくら	田植	小馬
						とけいのうた	國引き	雨	田植
						かぼちゃの花	軍かん	蟬	雨
						花火	雨ふり	蛙と蜘蛛	蟬
						夜明け	花火	浦島太郎	蛙と蜘蛛
						こうま	たなばたさま	案山子	浦島太郎
						虫の声	うさぎ	富士山	案山子
						そうだん	長い道	ラジオ	富士山
						かかし	朝の歌	二宮金次郎	仁田四郎
						どんぐりコロコロ	富士の山	折紙	紅葉
						木の葉	菊の花	竹の子	天皇陛下
						風の日	かけっこ	金魚	時計の歌
						まりつき	たきぎひろひ	こだま	雲
						はねつき	おもちゃの戦車	ボブラ	梅にうぐいす
						雪	羽根つき	がん	母の心
						石やさん	兵たいさん	影法師	那須與一
						春をまつ	ひな祭	紅葉	
						水しゃ	日本	時計の歌	
						春がきた	羽衣	うちの子ねこ	
								雲	
								梅にうぐいす	
								母の心	
								那須與一	



日本歌曲・歌詞背景の研究

第3学年									表2-3
平成23年	平成14年	平成4年	昭和55年	昭和46年	昭和36年	昭和26年	昭和16年	昭和7年	明治44年
知道体のバランス	基礎・基本の重視	個性と新学力観	ゆとり教育	現代化	共通教材曲の指定	試案	国民学校(小学)	新訂尋常小学唱歌	尋常小学唱歌
春の小川	春の小川	春の小川	春の小川	春の小川	春の小川	春の小川	春の小川	春が来た	春が来た
うさぎ	うさぎ	うさぎ	うさぎ	もみじ	もみじ	なかよしこよし	鯉のぼり	かがやく光	かがやく光
ふじ山	ふじ山	ふじ山	ふじ山	村まつり	汽車	雲と風	天の岩屋	茶摘	茶摘
茶つみ	茶つみ	茶つみ				いけの雨	山の歌	青葉	青葉
						からす	田植	摘草	友だち
						かい	なはとび	木の芽	汽車
						いけのこい	子ども八百屋	蛭	虹
						ぼんおどり	軍犬利根	燕	鳥の声
						夕やけこやけ	秋	汽車	村祭
						みなと	稲刈	虹	鶴越
						村まつり	村祭	夏休	日本の国
						かねがなる	野菊	村祭	雁
						山のうた	田道間守	鶴越	取入れ
						こだま	潜水艦	波	豊臣秀吉
						いどの中	餅つき	噴水	冬の夜
						夜中	軍旗	日本の国	川中島
						冬の朝	手まり歌	雁	おもひやり
						小ぎつね	雪合戦	蟲の声	港
						とけいのうた	梅の花	取入れ	かぞへうた
						手紙	勇士	赤とんぼ	
						汽車	三勇士	豊臣秀吉	
						花や		麦まき	
								冬の夜	
								日本の国	
								川中島	
								飛行機	
								私のうち	
								かぞへうた	

第4学年									表2-4
平成23年	平成14年	平成4年	昭和55年	昭和46年	昭和36年	昭和26年	昭和16年	昭和7年	明治44年
知道体のバランス	基礎・基本の重視	個性と新学力観	ゆとり教育	現代化	共通教材曲の指定	試案	国民学校(小学)	新訂尋常小学唱歌	尋常小学唱歌
さくらさくら	さくらさくら	さくらさくら	さくらさくら	子守歌(陽音階)	子守歌(陽音階)	かすみかくもか	春の海	春の小川	春の小川
とんび	とんび	とんび	とんび	村のかじや	村のかじや	春	作業の歌	みなかの四季	櫻井のわかれ
まきばの朝	まきばの朝	まきばの朝	もみじ	茶つみ	赤とんぼ	すみれ	若葉	かげろふ	みなかの四季
もみじ	もみじ	もみじ				なわとび	機械	靖国神社	靖国神社
						田植	千早城	蠶	蠶
						わか葉	野口英世	五月	藤の花
						ほたる	水泳の歌	藤の花	曾我兄弟
						かえるの合唱	山田長政	動物園	家の紋
						歌のおけいこ	青い空	曾我兄弟	雲
						しょうじょうの歌	船は帆船よ	お手玉	漁船
						きたえる足	靖国神社	夢	何事も精神
						ひびくよ歌声	村の鍛冶屋	雲	廣瀬中佐
						かき	ひよどり越え	漁船	たけがり
						りょう船	入営	何事も精神	霜
						アマリス	グライダー	夏の月	八幡太郎
						村のかじや	きたへる	廣瀬中佐	村の鍛冶屋
						かぞえ歌	かぞへ歌	牧場の朝	雪合戦
						ゆめのお国	廣瀬中佐	たけがり	近江八景
						きかい	少年戦車兵	水車	つとめてやまず
						なんだっけ	無ごんのがいせん	霜	橘中佐
						夜汽車		山雀	
						もう春だ		八幡太郎	
								村の鍛冶屋	
								餅つき	
								雪合戦	
								近江八景	
								橘中佐	

第5学年									表2-5
平成23年	平成14年	平成4年	昭和55年	昭和46年	昭和36年	昭和26年	昭和16年	昭和7年	明治44年
知道体のバランス	基礎・基本の重視	個性と新学力観	ゆとり教育	現代化	共通教材曲の指定	試案	国民学校(小学)	新訂尋常小学唱歌	尋常小学唱歌
こいのぼり	こいのぼり	こいのぼり	子もり歌(陽音階)	こいのぼり	こいのぼり	春	金剛石・水は器	みがかずば	みがかずば
子もり歌(陽音階)	子もり歌(陽音階)	子もり歌(陽音階)	冬げしき	冬げしき	冬げしき	楽しいこきょう	朝禮の歌	金剛石・水は器	金剛石・水は器
冬げしき	冬げしき	冬げしき	スキーの歌	海	海	こいのぼり	大八州	水は都	水は都
スキーの歌	スキーの歌	スキーの歌				朝の月	忠霊塔	八岐の大蛇	八岐の大蛇
						雨だれ	赤道越えて	舞へや歌へや	舞へや歌へや
						夏は来ぬ	参列	鯉のぼり	鯉のぼり
						元気でいこう	海	菅公	運動会の歌
						ゆめ	戦友	加藤清正	加藤清正
						まきばの朝	揚子江	海	海
						赤とんぼ	大東亜	朝日は昇りぬ	納涼
						こきょうの人人	牧場の朝	納涼	忍耐
						ほうねん	聖徳太子	山に登りて	鳥と花
						秋の山	橘中佐	忍耐	菅公
						ねむれよ	秋の歌	風鈴	才女
						スキー	捕鯨船	鳥と花	日光山
						とうだいもり	特別攻撃隊	秋の山	冬景色
						冬景色	母の歌	いてよ	入営を送る
						ゆうびん	冬景色	兒島高德	水師營の會見
						海	小楠公	日光山	斎藤實盛
						春まつ心	白衣の勤め	三才女	朝の歌
						おちつばき	桃山	冬景色	大塔宮
						野ばら		進水式	卒業生を送る歌
								入営を送る	
								ひな祭	
								朝の歌	
								大塔宮	
								卒業生を送る歌	

第6学年									表2-6
平成23年	平成14年	平成4年	昭和55年	昭和46年	昭和36年	昭和26年	昭和16年	昭和7年	明治44年
知道体のバランス	基礎・基本の重視	個性と新学力観	ゆとり教育	現代化	共通教材曲の指定	試案	国民学校(小学)	新訂尋常小学唱歌	尋常小学唱歌
越天楽今様	越天楽今様	越天楽今様	おぼろ月夜	おぼろ月夜	おぼろ月夜	春のおとずれ	明治天皇御製	明治天皇御製	明治天皇御製
おぼろ月夜	おぼろ月夜	おぼろ月夜	かりがわたる	われは海の子	われは海の子	おぼろ月夜	敷島の	おぼろ月夜	兒島高德
かりがわたる	われは海の子	われは海の子	ふるさと	ふるさと	ふるさと	五月の歌	おぼろ月夜	遠足	おぼろ月夜
ふるさと	ふるさと	ふるさと				ひばり	姉	我は海の子	我は海の子
						麦かり	日本海海戦	故郷	故郷
						あかつきの景色	晴れ間	我等の村	出征兵士
						遠き小川	四季の雨	出征兵士	蓮池
						歌をわすれたカナリヤ	われは海の子	蓮池	燈台
						気のいいがちょう	満州のひろ野	瀬戸内海	秋
						花売	肇國の歌	燈台	開校記念日
						秋の田	體鍊の歌	日本三景	同胞すべて六仟萬
						山の子ども	落下傘部隊	秋	四季の雨
						ふるさと	御民われ	風	日本海海戦
						ゆうべのかね	渡り鳥	四季の雨	鎌倉
						思い出	船出	苑池	新年
						祝え	鎌倉	日本海海戦	國産の歌
						船出	少年産業戦士	鎌倉	夜の梅
						友情	スキー	森の歌	天照大神
						雪	水師營の會見	瀧	卒業の歌
						早春の歌	早春	鳴門	鳶
						さらば友よ	日本刀	夜の梅	スキーの歌
						よろこびの歌		雪	斎藤實盛
								天照大神	
								卒業の歌	
								鳶	
								スキーの歌	
								斎藤實盛	